

がん患者の気持ちのつらさガイドライン

研究分担者 藤澤大介（所属 慶應義塾大学医学部）
研究分担者 奥山 徹（所属 名古屋市立大学大学院医学研究科）
研究分担者 内富庸介（所属 国立がん研究センターがん対策研究所）
研究分担者 藤森麻衣子（所属 国立がん研究センターがん対策研究所）
研究分担者 島津太一（所属 国立がん研究センターがん対策研究所）

研究要旨

がん患者の Quality of Life (QOL) に大きく影響する「気持ちのつらさ」に関する診療ガイドライン作成を目的とする。Minds 診療ガイドラインの作成マニュアルにのっとり、現在システムティックレビューを実施中である。二次スクリーニングを終了し、エビデンス総体のまとめと推奨を作成中である。

研究協力者

稲垣正俊（島根大学）、貞廣良一（国立がん研究センター）、吉川栄省（日本医科大学医療心理学教室）、浅海くるみ（東京工科大学 医療保健学部看護学科）、阿部晃子（慶應義塾大学医学部精神神経科／緩和ケアセンター）、荒井幸子（横浜市立大学附属病院薬剤部）、五十嵐友里（埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック）、市倉加奈子（北里大学医療衛生学部健康科学科）、今井晶子（市民委員）、采野優（京都大学大学院医学研究科腫瘍薬物治療学講座）、大谷弘行（聖マリア病院／九州がんセンター）、岡島美朗（自治医科大学附属さいたま医療センター）、岡村優子（国立がん研究センター中央病院）、茅野綾子（国立がん研究センター中央病院）、倉田明子（広島大学）、小早川誠（広島県安佐市民病院）、佐藤温（弘前大学大学院医学研究科腫瘍内科学）、竹内恵美（国立がん研究センター中央病院）、田村法子（慶應義塾大学医学部精神神経科）、馬場知子（自治医科大学附属さいたま医療センター）、久村和穂（金沢医科大学医学部腫瘍内科

学）、松本禎久（国立がん研究センター東病院緩和医科）、縦野香苗（名古屋市立大学大学院看護学研究科）、柳井優子（国立がん研究センター精神腫瘍科）

A. 研究目的

がん患者の Quality of Life (QOL) に大きく影響する「気持ちのつらさ」に関する診療ガイドラインを作成することを目的とする。

B. 研究方法

昨年度に引き続き、Minds 診療ガイドラインの作成マニュアルにのっとりすすめている。

再発恐怖の診療ガイドラインのグループと協働しながら作業を進めている。

（倫理面への配慮）

既存の研究のレビューのため倫理的問題は発生しない。

C. 研究結果

クリニカルクエスチョンを以下に設定した。

- ・がん患者の気持ちのつらさに抗不安薬は推奨されるか
- ・がん患者の気持ちのつらさに抗うつ薬は推奨されるか
- ・がん患者の気持ちのつらさに心理療法は推奨されるか
- ・がん患者の気持ちのつらさに協働的ケア collaborative care は推奨されるか
- ・がん患者の気持ちのつらさに早期からの緩和ケアは推奨されるか
- ・がん患者の気持ちのつらさに介護者（家族など）への支援は推奨されるか
- ・がん患者の気持ちのつらさにピアサポートは推奨されるか

対象は、成人がん患者（18歳以上）、アウトカムは、益のアウトカムとして、気持ちのつらさ指標の改善（distress）、抑うつ（depression）の改善、不安の改善（anxiety）、QOLの向上（quality of life）、生存の向上（survival）、害のアウトカムとして、有害事象（adverse effect）、脱落（drop out）をあげた。

一次スクリーニング（タイトルと抄録）、二次スクリーニング（全文）を終えた。一部の臨床疑問（早期からの緩和ケア、介護者への支援、ピアサポート）については、気持ちのつらさを有するがん患者（閾値以上の気持ちのつらさを有する患者）を対象としたランダム化比較試験が希少であり、閾値下のがん患者を対象とした試験のエビデンスも収集し、それらを統合してエビデンス総体をまとめる必要性が示された。

D. 考察

各臨床疑問について、質の高い（ランダム化比較試験）エビデンスの概要が把握された。一部の臨床疑問（早期からの緩和ケア、介護者への支援、ピアサポート）については、気持ちのつらさを有するがん患者（閾値以上の気持ちのつらさを有する患者）を対象としたランダム化比較試験が希少であり、閾値下のがん患者を対象とした試験

のエビデンスも収集し、それらを統合してエビデンス総体をまとめる必要性が示された。

今後はエビデンス総体のまとめと推奨の作成が必要である。それを通じて、がん患者の気持ちのつらさに対する診療ガイドラインが作成され、がん患者のQOLの向上が期待される。また、がん患者の気持ちのつらさについて今後推進すべき研究が明らかになると考えられる。

E. 結論

がん患者の気持ちのつらさに対する診療ガイドラインが作成途上である。系統的レビューの過程で既存の研究の二次スクリーニングが行われ、今後、エビデンス総体のまとめと推奨の作成が期待される。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Silbermann M, Calimag MM, Eisenberg E, Futerman B, Fernandez-Ortega P, Oliver A, Monje JPY, Guo P, Charalambous H, Nestoros S, Pozo X, Bhattacharyya G, Katz GJ, Tralongo P, Fujisawa D, Kunirova G, Punjwani R, Ayyash H, Ghayeb I, Manasrah N, Bautista MJS, Kotinska-Lemieszek A, de Simone G, Cerutti J, Gafer N, Can G, Terzioglu F, Kebudi R, Tuncel-Oguz G, Aydin A, Şenel GO, Mwaka AD, Youssef A, Brant J, Alvarez GP, Weru J, Rudilla D, Fahmi R, Hablas M, Rassouli M, Mula-Hussain L, Faraj S, Al-Hadad S, Al-Jadiry M, Ghali H, Fadhil SA, Abu-Sharour L, Omran S, Al-Qadire M, Hassan A, Khader K, Alalfi N, Ahmed G, Galiana L, Sansó N, Abe A, Vidal-Blanco G, Rochina A. Evaluating Pain Management Practices for Cancer Patients among Health Professionals: A Global Survey. *J Palliative Med* 2022 Apr 18. doi: 10.1089/jpm.2021.0596. [Online ahead of print] (査読あり、国際共著)
- 2) Matsumoto Y, Umemura S, Okizaki A, Fujisawa D, Kobayashi N, Tanaka Y, Sasaki C, Shimizu K, Ogawa A, Kinoshita H, Uchitomi Y, Yoshiuchi K, Matsuyama Y, Morita T, Goto K, Ohe Y. Early

specialized palliative care for patients with metastatic lung cancer receiving chemotherapy: A feasibility study of a nurse-led screening-triggered program. Japanese J Clinical Oncology 2022; 52(4):375-382. doi: 10.1093/jjco/hyab204. 査読あり

3) Yoshikawa E, Fujisawa D, Hisamura K, Murakami Y, Okuyama T, Yoshiuchi K. The potential role of peer support interventions in treating depressive symptoms in cancer patients. J Nippon Med Sch. 2022;89(1):16-23. doi: 10.1272/jnms.JNMS.2022_89-117. (査読あり)

4) Arai D, Sato T, Nakachi I, Fujisawa D, Takeuchi M, Kawada I, Yasuda H, Ikemura S, Terai H, Nukaga S, Inoue T, Nakamura M, Oyamada Y, Terashima T, Sayama K, Saito F, Sakamaki F, Naoki K, Fukunaga K, Soejima K. Longitudinal assessment of prognostic understanding in advanced lung cancer patients and its association with their psychological distress. The Oncologist 2021 Sep 12. doi: 10.1002/onco.13973. Online ahead of print. 査読あり)

5) Tamura N, Park S, Sato Y, Sato Y, Takita Y, Ninomiya A, Sado M, Mimura M, Fujisawa D. Predictors and moderators of outcomes in mindfulness-based cognitive therapy intervention for early breast cancer patients. Palliat Support Care. 2021:1-8. doi: 10.1017/S147895152100078X. Online ahead of print. (査読あり)

6) Maeda I, Inoue S, Uemura K, Tanimukai H, Hatano Y, Yokomichi N, Amano K, Tagami K, Yoshiuchi K, Ogawa A, Iwase S; Phase-R Delirium Study Group (Abo H, Akechi T, Akizuki N, Okuyama T, Fujisawa D, Hagiwara S, Hirohashi T, Hisanaga T, Imai K, Inada S, Inoue S, Inoue S, Iwata A, Kumano A, Matsui T, Matsumoto Y, Matsuo N, Miyajima K, Mori I, Morita S, Nakahara R, Nakajima N, Nobata H, Odagiri T, Shimizu K, Sumazaki Watanabe Y, Tagami K, Takeuchi E, Takeuchi M, Tataru R,

Tokoro A, Uchida M, Uemura K, Yabuki R, Yokomichi N.). Low-Dose Trazodone for Delirium in Patients with Cancer Who Received Specialist Palliative Care: A Multicenter Prospective Study. J Palliat Med. 2021 Feb 11. doi: 10.1089/jpm.2020.0610.

7) Abe A, Kobayashi M, Kohno T, Takeuchi M, Hashiguchi S, Mimura M, Fujisawa D. Patient participation and associated factors in the discussions on Do-Not-Attempt-Resuscitation and end-of-life disclosure: a retrospective chart review study. BMC Palliative Care 20 (6), 2021, DOI: 10.1186/s12904-020-00698-8 査読有 (科研費C謝辞あり)

8) 藤澤大介. 死別悲嘆と遷延性悲嘆症. 精神科治療学増刊号 36 巻, 109-111, 2021 査読なし

9) Wu Y, Levis B, Sun Y, He C, Krishnan A, Neupane D, Bhandari PM, Negeri Z, Benedetti A, Thombs BD; DEPRESSion Screening Data (DEPRESSD) HADS Group. Accuracy of the Hospital Anxiety and Depression Scale Depression subscale (HADS-D) to screen for major depression: systematic review and individual participant data meta-analysis. BMJ. 2021 May 10;373:n972.

2. 学会発表

1) 藤澤大介. がん患者における気持ちのつらさガイドライン—中間報告. 第19回日本臨床腫瘍学会学術集会. 京都(2022.2)

2) 藤澤大介、藤森麻衣子、吉川栄省、浅海くるみ、阿部晃子、荒井幸子、五十嵐友里、市倉加奈子、今井晶子、采野 優、大谷弘行、岡島美朗、岡村優子、茅野綾子、小早川誠、佐藤 温、竹内恵美、田村法子、馬場知子、久村和穂、松本禎久、縦野香苗、村上好恵、柳井優子、奥山徹、稲垣正俊、貞廣良一. がん医療における気持ちのつらさガイドライン. 第34回日本サイコオンコロジー学会総会. 2021年9月. オンライン

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む.)
なし